

Hiroshima City University

Graduate School of Art

広島市立大学大学院案内 2007

芸術学研究科



広島市立大学は、広島市の都市像である「国際平和文化都市」にふさわしい大学づくりを目指して、1994年（平成6年）4月に国際学部、情報科学部、芸術学部の3学部構成で開学しました。この3学部における学術研究の高度化を図るとともに、国際的かつ先端的な専門教育を行うために、4年後の1998年（平成10年）にはそれぞれの学部に基づき国際学、情報科学、芸術学の3研究科からなる博士前期課程（修士課程）を、さらに2000年（平成12年）には博士後期課程を設置しました。現在、社会人や留学生を含む多様な学生が学ぶ大学院として成長し、2006年（平成18年）3月までに840名の博士前期課程修了者、47名の博士後期課程修了者を輩出しています。

本学大学院における教育研究の目的は、最先端の学問領域を究め、知性と感性と創造性を研ぎ、多様化する社会のさまざまな分野で活躍できる人材を育成することです。そのために、3研究科の専門分野における高度な研究を通じた教育を実現する授業科目群と、学際的な知識を身につけ調和のとれた人間形成を図る授業科目群「21世紀の人間と社会」を開設していることが特色です。

このように本学大学院は、あらゆる活動が高度な知識や情報を直接的な基盤とする知識基盤社会において、指導的役割を果たしうる能力と資質を備えた教育者、研究者、そして高度専門職業人の育成を目指しています。

広島市立大学長
浅田 尚紀

Contents

芸術学研究科	2
博士前期課程	
全研究科共通科目群 21世紀の人間と社会	4
絵画専攻	7
彫刻専攻	8
造形計画専攻	9
博士後期課程	
総合造形芸術専攻	10
大学院生の研究活動紹介	12
芸術学部	13
美術学科	15
デザイン工芸学科	16
芸術学部・芸術学研究科の施設	17
交通案内	17

芸術学研究科

Graduate School of Art

芸術創造活動を自ら行う芸術家の養成と、
地域文化振興のための人材養成という課題に応え、
高度な教育・研究を実践します。

教育研究の特色

1. 近年、急速な縮退を危惧されている日本独自の伝統的な美術、工芸等の芸術文化に対し、古典研究を重視することにより貴重な伝統の継承を行うとともに、現代の視点に立って新たな美術、工芸等の創造に寄与すべく、21世紀を展望した美術、工芸教育・研究を行います。
2. 技術革新により多様に展開される新素材、新技法への研鑽を深めるとともに、急進展を遂げつつあるコンピュータをもととした多岐にわたる表現メディア、特に映像メディアへの研究に取り組み、新たな造形表現の創出のための研究を行います。
3. 単科大学が多い芸術系大学のなかで国際学部、情報科学部との3学部構成という特色を活かし、これまで教員の共同研究等他学部との連携による教育・研究を実施してきたところであり、大学院においても、引き続き国

際学研究科及び情報科学研究科との連携を図り、学際的な教育・研究を実施します。

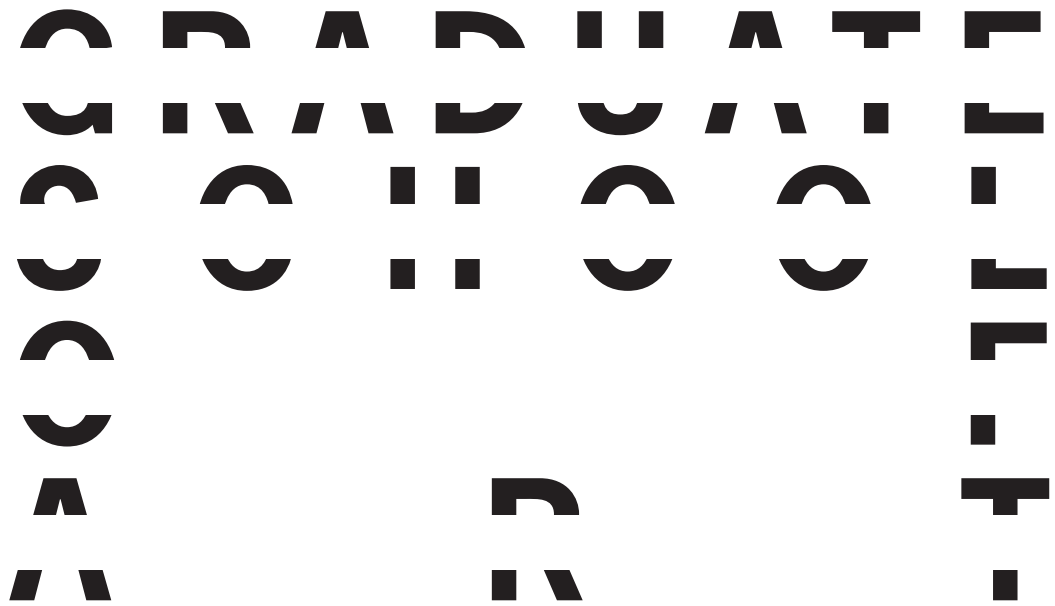
4. 全人格的人間形成を目指した教育を通じて、豊かな学識を養い、論理的な思考力を鍛えることにより、造形上の創作作品を通しての感性的な自己表現のみならず、著作物等を通しての文章表現など多様な表現力を有する芸術家の養成を行います。
5. 特に、後期課程においては、各専門領域における基礎の探究を基に領域を超えた横断的な研究を行うとともに、各領域の実技を踏まえより高度な理論的習熟を目指し、幅広い表現能力の開発を図ります。
6. 本研究科が修了認定者に授与する学位は、前期課程は「修士（芸術）」、後期課程は「博士（芸術）」となります。

修業年限

博士課程の修業年限は、前期課程は2年、後期課程は3年とします。ただし、優れた研究業績をあげた者については、それぞれ1年以上の在学をもって修了を認めることがあります。

芸術学研究科の構成

		専攻	募集定員	領域	詳細
博士前期課程	芸術学研究科	絵画専攻	10人	日本画領域 油絵領域	P.7
		彫刻専攻	4人		P.8
		造形計画専攻	16人		P.9
		専攻	募集定員		詳細
博士後期課程	芸術学研究科	総合造形芸術専攻	6人		P.10



全研究科共通科目群 21世紀の人間と社会

Graduate School of International Studies | Graduate School of Information Sciences | Graduate School of Art

学際的な視野から、明日の地球社会を見つめる

次代を担う若者たちが、専攻する専門分野の既存の枠組みを越えて、常に、新鮮な視点、多様な問題意識、柔軟な判断力を持ち、人間と自然への畏敬の念を培いつつ、21世紀に役立つ調和の取れた学問研究を行える教育・研究体制を整えることが必要です。

このために、全研究科共通の選択必修科目群「21世紀の人間と社会」を編成。この科目群に選定する10科目の講義内容は、人文科学、社

会科学、自然科学、芸術学など、既存の縦割りによる学問領域を越えて、より広範な学際的領域で編成されています。学生たちは、これらの科目群を通してさまざまな分野の知的情報のエッセンスに触れることにより、学問研究に対するバランス思考と柔軟な批判精神を養い、修得する専門知識をリチャップルする機会が得ら

れます。さらに、既成の学問への固定的なイメージを脱し、旺盛な知的好奇心と学際的関心を広げて、21世紀を生きるための新たな知のパラダイム構築へ向かわせる進取の気概と創造的精神の萌芽が期待されます。

地球社会論

地球社会論はすでにできあがった学問ではありません。地球的規模で起こっている諸問題を論じ、その解決方法を見いだす創造的な講義にしたい。

非常勤講師 中島 潤

平和研究

国際平和の構築の現実的方法として、国連による集団安全保障の方式がこれまで最善のものと考えられてきました。国連による現代の平和構築の企てや国連改革の問題点、および国際刑事裁判所についても検討します。

非常勤講師 藤田 久一

日本論

日本の神話・伝説・文学を世界のそれと比較し、日本的霊性について考えます。

教授 篠田 知和基

情報と倫理

情報を文化とみなし、情報技術開発を1つの文化的な活動として捉えます。人間のすべての活動の背景には倫理的要素があります。日常漫然と見過ごしがちな、情報技術に関連したもろもろの社会事象を身辺から拾い上げ、文化的な視点からその質を評価します。また、本講義では体系化された情報倫理の口述に代え、もろもろの社会事象が内包する倫理的側面についての発見的な意見交流を受講生に体験していただきます。

非常勤講師 市川 忠男

開設授業科目

科学史

歴史的展望において宇宙観と人間観について論じ、西欧の学問の歴史全体の見直しと、その中で科学の位置づけを図るとともに、現代科学のもつ制度上、内容上の特質を論じます。

非常勤講師 村上 陽一郎

人間論 A (人文・社会科学)

人間らしさに関する歴史的自覚の過程を次の課題に即して論じます。日本的芸術並びに芸術観の形成を社会的制度や宗教・倫理等との絡みを通して議論します。

非常勤講師 上寺 常和

人間論 B (自然科学)

人間社会と調和する科学文明社会を求め、合理主義的な科学的知識ではなく、人間を尺度として計ることのできる世界の実現について、自然科学、医学の分野から論じます。

未定

情報と社会

情報システム利用は、商流（生産・販売）から始まり、物流（輸送）、金流（決済）へと変化しました。今後は知流（開発・調査・教育）の大変化が始まるでしょう。利用の変化と、人類が初めて手にした超低価格の通信手段は情報独占により維持されていた権力者による支配を崩壊させ、すべての人が情報を共有することを可能にし、真の民主主義社会が成立する条件を整えました。このことは経済を変え、政治や法を変え、価値観まで変化させます。この社会変動を展望します。

非常勤講師 真田 英彦

道具論

道具がどのような存在であるかを論じます。道具存在論、道具がひらく文明と文化の歴史、過去と現在、未来論、形態と機能、美意識の国際比較、美術、工芸とインダストリアルデザインとの違いなど、道具を使う立場、つくる立場、考える立場、商う立場にとっての道具のありようの見方を論じます。

非常勤講師 栄久庵 憲司

都市論

グローバル化やマルチメディア技術の普及とともに都市はますます不可視となってきました。機械化、ネットワーク化する都市は、他方で生命体としての人間のエコロジー回帰を促しています。そもそも都市とは何だったのか、歴史の原点に遡り、かつ未来都市を構想しつつ、また視野を広く地球規模に拡げて、20世紀のひとつの象徴的な都市広島においてこそ論じなければならない21世紀における人間と都市について論じます。

(オムニバス形式) 非常勤講師 杉本 俊多
非常勤講師 岡河 貢
非常勤講師 千代章一郎

芸術学研究科 博士前期課程

博士前期課程理論系科目

美術史特講（日本）A・B

江戸の洋風画から明治洋画、そして近代日本の油彩表現にいたる絵画史を、先覚画人の業績、作品と生涯、著作、談話、とりわけその画論を検討し、遠近法、明暗法、質感描写、色彩などの理解と習熟の研究を通じて、日本人の視覚の近代変革を考察する。

教授 大井 健二

美術史特講（東洋・工芸）A・B

仏教美術史。アジア各地の仏教美術を鑑賞し、造像様式の変遷をたどる。
美術工芸史。当時の東アジア及びわが国の情勢を踏まえて、正倉院宝物の濫觴、概要、特質の3項目に分けて詳述する。

非常勤講師 石松日奈子
非常勤講師 阪田 宗彦

美術史特講（西洋）A・B

西洋美術史のなかでも、とくに19世紀から20世紀に焦点をあてる。美術史を編年的に理解するのではなく、美術的思考の変遷としてとらえなおしていく。美術史とは、社会に対応する人間の目と思考の文化史でもあるのだ。

非常勤講師 谷藤 史彦

美学特講 A・B

ものを視ること、創ることの意味について問いかけ、反省的考察を深めることは、芸術制作にたずさわる者の精神的支柱となる。古代から現代に至る美学史の中の基本的諸問題をイメージの受容と創造の態度に引き寄せつつ検討することを通じて、現代の多様な造形活動のあり方を哲学的見地から基礎付ける。

助教授 関村 誠

授業科目及び担当教員は平成18年度のものです。

取得可能な教員免許状

- ・中学校教諭専修免許状（美術）
- ・高等学校教諭専修免許状（美術）
- ・高等学校教諭専修免許状（工芸）

絵画専攻

Painting

古典作品の研究を通して、個性的な創造力を育成

教育研究内容

絵画専攻では、日本画と油絵に関する教育・研究を行います。

日本画では、古典作品の表現、技法及び材料の理解と造形感覚を修得させ、各自の現代における個性的な創造力の育成を図ります。教育課程の編成にあたっては、各人の個性的な創造力の育成を主体とした課程と、創造力の育成並びに古典模写を通して技法や材料の研究を深める課程の二本立てとし、多角的な指導を行います。

油絵では、西洋絵画の根底にある「写実」を発展させた新しい「写実・具象」絵画を研究の目的とします。油彩絵画の技法・材料の観点から古典絵画の組成研究とともに、東洋と西洋の美意識の比較研究を行い、現代における個性的な創造力の育成を図ります。教育課程の編成にあたっては、油絵の伝統を掘り下げつつ各人の個性的な創作研究を通して、「写実・具象」絵画の新しい可能性を探るべく多角的な研究指導に配慮します。

開設実習・演習・講座等

実習・演習・講座等	実習・演習・講座等の内容	担当教員
日本画研究Ⅰ	制作主体のカリキュラムで、材料・技法等の理解と造形感覚を修得し、個性的な創造力の育成を図るとともに精神性の大切さを考えます。	教授 西田 俊英 助教授 藁谷 実
日本画研究Ⅱ	Ⅰにおける成果を踏まえ、さらなる展開を図ります。	
日本画研究(含古典研究)Ⅰ	制作と合わせて模写による古典研究を行います。高度な古典模写を通して、技法や材料の研究を深め、個性的な創造力の育成を図るとともに精神性の大切さを考えます。	教授 倉島 重友 助教授 北田 克己 助教授 佐々木 正
日本画研究(含古典研究)Ⅱ	Ⅰにおける成果を踏まえ、さらなる展開を図ります。	
油絵研究Ⅰ	ヨーロッパの伝統的な絵画技法の実践と、油彩並びにフレスコの素材の研究を通して西洋画の絵画構造を探り、油彩画の表現における、より専門的な美的、思想的な背景を学びます。これにより、新しい自己表現の可能性を探ります。	☆教授 三原 捷宏 教授 堀 研 教授 磯江 毅 教授 友安 一成 教授 吉井 章 教授 大矢 英雄 助教授 森永 昌司
油絵研究Ⅱ	西洋絵画の構造を探りつつ、日本の美意識との比較研究を通して現代の絵画のありかたを研究します。また、本質的な美術のありかたを考え、真の自己確立を図ります。	
造形総合演習	芸術的分野の様々な造形活動に通底する基礎的諸問題を、総合的に考察します。専攻分野における各自の課題について、自らの造形活動において直面する難題を技術的に処理するだけでなく、理論的関心事として、その問題性、必要性、将来的展望を分析再編成する力を身につけます。	(オムニバス形式) 教授 大井 健次 教授 大井 健二 助教授 関村 誠
日本画材料技法演習	創作実技研究に必要な材料及び技法について歴史的・理論的分析を行うとともに、創造的な表現材料及び技法を研究します。	非常勤講師 手塚 雄二
油絵材料技法演習	油絵の創作研究に必要な表現材料(支持体、素地、展色材、顔料など)及び表現技法について、歴史的・理論的分析を行うとともに、創造的な表現材料及び技法を研究します。	非常勤講師 歌田 眞介

授業科目の概要および担当教員については、平成18年4月現在のものです。☆の教員は、平成18年度末で退任予定です。



彫刻専攻

Sculpture

高度な技術を磨き、独創的・多角的に研究指導

教育研究内容

学部で修得した基礎的技術を一層高度な芸術性の高いものとするため、塑像、木彫、石彫、金属等の各工房に分かれ、独創的な彫刻の研究を深めます。教育課程の編成にあたっては、主要な素材、技法の種別にしたがって2課程により編成し、多角的な研究指導に配慮します。

開設実習・演習・講座等

実習・演習・講座等	実習・演習・講座等の内容	担当教員
彫刻研究 A I	学部で培ってきた塑造を核とした彫刻的造形力、精神性の基礎をより深く追求し、さらに石彫・木彫、テラコッタを中心とした実材彫刻の多様な表現方法を学び、彫刻概念の幅を広げるとともに、その中で個性的な彫刻制作を研究します。	教授 植草 正勝 教授 前川 義春
彫刻研究 A II	A Iで学んだ彫刻的要素をもとに、さらに展開と探究を進め、室内や野外の空間における彫刻の効果的な在り方をさぐり、個性ある彫刻表現の確立をめざします。	
彫刻研究 B I	学部で培ってきた塑造を核とした彫刻的造形力、精神性の基礎をより深く追求し、さらに金属、木彫、ミックスドメディアを中心とした実材彫刻の多様な表現方法を学び、彫刻概念の幅を広げるとともに、その中で個性的な彫刻制作を研究します。	教授 綿引 道郎 助教授 伊東 敏光
彫刻研究 B II	B Iで学んだ彫刻的要素をもとに、さらに展開と探究を進め、室内や野外の空間における彫刻の効果的な在り方をさぐり、個性ある彫刻表現の確立をめざします。	
造形総合演習	芸術的分野の様々な造形活動に通底する基礎的諸問題を、総合的に考察します。専攻分野における各自の課題について、自らの造形活動において直面する難題を技術的に処理するだけでなく、理論的関心事として、その問題性、必要性、将来的展望を分析再編成する力を身につけます。	(オムニバス形式) 教授 大井 健次 教授 大井 健二 助教授 関村 誠
環境造形演習	建築物や自然環境の中で、彫刻をより効果的に存在させるためには、彫刻とそれをとりまく環境との相互関係に配慮が必要となってきます。また現在、環境そのものを高度に造形化できる人材が求められています。ランドスケープ等も含め環境造形全般についての意識を高め、演習を通して伝統的なものから現代のものまでを学びます。	非常勤講師 岡本 敦生

授業科目の概要および担当教員については、平成 18 年 4 月現在のものです。



造形計画専攻

Design and Industrial Arts

「高次元の生活文化の創造」を基盤に新たな原型を創出

教育研究内容

デザイン並びに工芸の使命である「高次元の生活文化の創造」を基盤に据え、永年わが国に培われてきた独自の美意識の存在を探究するとともに、デザイン、工芸の各専門領域を深く掘り下げ、また両領域にまたがる課題への総合的な視点に立った新たな原型の創出を目的として、より高度な専門分野での造形研究を行います。教育課程の編成にあたっては、多様化、多角化する生活文化や社会環境を構成する造形のあり方をデザイン、工芸両分野の総合的な視点から考察することに狙いを定め、生活社会を取り巻く造形分野にまたがる諸問題、諸課題への理解と認識を深めるとともに、各造形領域における新たな造形表現の創出と具現化に向けた指導に留意します。そのため、分野の異なった複数の指導教員の指導を受けることも可能な科目編成を行い、従来の固定したデザイン、工芸の分野、領域に拘泥しない新たな造形教育、造形研究を目指します。



開設実習・演習・講座等

実習・演習・講座等	実習・演習・講座等の内容	担当教員
造形計画研究Ⅰ	基礎的な素材の把握と様々な造形表現をもとに、デザイン、計画系分野における技術革新や表現メディアの進展に対応したより高度で多様な造形表現研究と、工芸、実材系分野におけるわが国独自の表現技法の修得と素材研究及び新たな表現法の研究を、各々の研究テーマ及び研究計画に沿って綿密に関連させつつ研究指導を行います。	造形計画専攻担当全教員
造形計画研究Ⅱ	Ⅰにおける修得をもとに、さらなる展開と探求を進めて、その到達を計画及び制作としてまとめあげます。	
実習・演習・講座等	実習・演習・講座等の内容	担当教員（オムニバス形式）
造形総合演習	芸術的分野の様々な造形活動に通底する基礎的諸問題を、総合的に考察します。専攻分野における各自の課題について、自らの造形活動において直面する難題を技術的に処理するだけでなく、理論的関心事として、その問題性、必要性、将来的展望を分析再編成する力を身につけます。	教授 大井 健次 教授 大井 健二 助教授 関村 誠
現代美術特別演習	現代美術の演習とその作品の言語構築を通して、自らプレゼンテーション、キュレーションのできるアーティストやキュレーターを育成します。アートプロジェクトの設計や運営、アートマネジメント（芸術と社会との接点を開発し、芸術家と市民を仲介するなど芸術の社会展開を図る活動）など国内外での実践活動を通じて研究指導を行い、研究を深めていきます。	教授 大井 健次 助教授 蝦澤 達夫 助教授 柳 幸典 ◎助教授 加治屋健司
視覚造形演習	視覚伝達デザイン分野を軸に、古代壁画から現代のマルチメディア・アートにいたる視覚造形を、その歴史的な背景から概説するとともに、描画技法やイラストレーション、映像やコンピュータグラフィックスの演習を通じて、その応用や新たな展開を探ります。	教授 及川 久男 (兼任)教授 大井 健次
メディア造形演習	高度に整備されたコンピュータ環境を活かし、多様なメディアを用いた、五感すべてに訴えかける芸術活動の可能性を探索するため、コンピュータグラフィックスによる映像表現を中心にしたバーチャル環境を軸に、新しいアートのカテゴリー創出の可能性を探ります。	教授 中嶋 健明 助教授 笠原 浩
立体造形演習	プロダクト、機器デザイン分野を中心に、人とモノの関係を多視点から考察し、その背景となる社会環境、創造環境について概説するとともに、高度に整備された造形工房、コンピュータ環境を活かした思考及び造形の実験の場として、個の創造性を高め、人とモノとの関係における新たな表現の創出を目指します。	教授 服部 等作 助教授 吉田 幸弘
金属造形演習	金属素材の多様性を歴史的な視点から考察し、国内外の様々な形態の彫鍍金技法への総合的応用を概説するとともに、現代の造形分野における金属造形の実在意義を社会と地域との関連性を模索しながら、金属造形に必要な発想法、表現法、造形法を演習します。	教授 若山 裕昭 教授 南 昌伸 助教授 永見 文人
漆造形演習	古くから人間生活と深い係わりを持つ漆に関し、その沿革、採取、性質、精製、用具材料、多岐にわたる技法等を概説するとともに、漆がもたらす美の典型について、思考実験を通して探り出します。	講師 大塚 智嗣
染織造形演習	数千年に及ぶ染織工芸の歴史と伝統を踏まえつつ、現代の多様化したテキスタイル分野を広い視点でとらえ、伝統的な染織作品からファイバーアート、さらにはコンピュータグラフィックスとも深く関連するテキスタイルデザインまで及ぶ造形表現への発想から展開までを演習します。	教授 藤本 哲夫 助教授 倉内 啓

授業科目の概要および担当教員については、原則として平成 18 年 4 月現在のものです。◎の教員は平成 19 年度から着任予定です。

芸術学研究科 博士後期課程

博士後期課程 理論系科目

美学特講

現代の芸術文化の状況に組み込まれつつ制作する造形作家は、文化を成立させている基盤とそ
の中での芸術に関わる人間活動の特質を捉え、
批判的に検討を加えることによって、自らの制
作活動の礎を固めることができる。こうした思
索の深化と批判的精神の錬成に向けて美学・哲
学の諸問題を考察する。

助教授 関村 誠

日本美術史特講

近代化の歩みの中で日本近代美術史の内実を考
察するため、日本油彩画の展開を浅井忠（1856
～1907）、黒田清輝（1866～1924）、さらに
岸田劉生（1891～1929）、小出権重（1887～
1931）の事例において、作品と史料に基づい
て検討し、また、美術学校という教育制度や美
術を取り巻く社会的条件についても論究する。
画家の執筆した文章や懷想談を読み深める。

教授 大井 健二

西洋美術史特講

西洋美術史のなかでも、とくに19世紀から20
世紀に焦点をあてる。美術史を編年的に理解す
るのではなく、美術的思考の変遷としてとらえ
なおしていく。美術史とは、社会に対応する人
間の目と思考の文化史でもあるのだ。

非常勤講師 谷藤 史彦

東洋美術史特講（彫刻・工芸）

インドに興った仏教と仏教美術は東アジア地域
に広がったが、そこには中国という巨大な文化
圏が存在した。仏教美術は中国の伝統文化に接
触して変貌をとげ、中国的な感覚に近い造形を
生み出した。仏教美術における「中国化」をテ
マに、アジア各地の作品を検討する。

欽明朝に公伝した仏教は、二百年後の奈良時代
に成熟し、以来、平安、鎌倉、室町と時代の移
り変わりとともに、浄土、密教、禅など新たに
多様な相を加えて行った。これらを背景に調製
された各種の荘厳具、供養具、僧具、梵音具等
からなる仏教工芸品は、素材、制作技法、造形
意匠などなど実に多種多様な内容を持ち、わが
国の工芸品の主流を占めているといっても過言
ではない。わが国で展開した仏教工芸の諸相を
詳述して個々の作品に検討を加え、わが国の工
芸の流れの一端を把握する。

非常勤講師 石松日奈子

非常勤講師 阪田 宗彦

デザイン特講

近代デザイン史における時代背景、思想、理念
の形成、運動の展開をふまえ、高度化し、かつ、
クロスオーバーしつつ展開される現代の造形表
現の発展形態を探るとともに、新たな表現と創
造の役割と可能性を探求する。

教授 大井 健次

総合造形芸術専攻

Fine Arts and Art Theory

高度な創造・表現の技術と理論を追求し、領域を超えた識見を養成

教育研究内容

前期課程は各専攻領域を中心に芸術表現の研究が行われていますが、後期課程では各専攻の内容を深化させるとともに、各領域を横断する研究や理論的研究も含めて、より深く総合的な教育研究を行います。

この意味から、後期課程の教育研究組織は、前期課程のように複数の専攻に分割する構成を取らず、総合造形芸術専攻の1専攻とします。

開設実習・演習・講座等

実習・演習・講座等の内容	実習・演習・講座等の内容	担当教員	
創作総合研究Ⅰ・Ⅱ それぞれの実技系教員は、学生の研究領域のテーマに応じて、分担または合同で実技制作の研究指導を行います。 Ⅱでは、Ⅰにおける成果を踏まえ、さらに作家として自立的で高度な創造的制作の素質を養成するための研究を行います。	絵画領域 日本画研究 日本画の伝統技法及び材料等の理解をより一層深め、個性的な創造力の育成と精神性の確立に向けて指導します。	教授 倉島 重友 教授 西田 俊英	
	油絵研究 西欧絵画の根底にある写実精神を基盤に、油絵の技法及び材料の理解をより一層深め、高度な創造的制作の資質を養成するための指導を行います。	☆教授 三原 捷宏 教授 堀 研 教授 磯江 毅 教授 友安 一成 教授 吉井 章 教授 大矢 英雄	
	彫刻領域 彫刻研究 作品の創作、研究を通して、高度な彫刻的造形力及び精神性を養います。塑造、石彫、木彫、金属、プラスチック、ミクストメディア、テラコッタなど、専門的素材研究の中から、その技法及び表現を探究させるよう指導します。	教授 綿引 道郎 教授 植草 正勝 教授 前川 義春 助教授 伊東 敏光	
	造形計画領域 デザイン研究 技術革新や表現メディアの進展に対応した、より高度で多様な表現について、各専門分野との連携を保ちつつ、研究指導を行います。	教授 大井 健次 教授 服部 等作 教授 中嶋 健明 教授 及川 久男 助教授 鰐澤 達夫	
	工芸研究 実材系分野である工芸において培われてきた、わが国独自の表現法の修得と素材研究及び新たな表現方法について研究指導を行います。	教授 若山 裕昭 教授 藤本 哲夫 教授 南 昌伸	
	特別領域横断 この研究では、実技系と理論系の教員が共同で研究指導にあたります。その指導方法は、学生の研究志向に応じて、各芸術ジャンル及び美学、芸術学、美術史の理論領域を横断的に行います。研究指導にあたっては、絵画領域（日本画・油絵）、彫刻領域、造形計画領域（現代表現・視覚・立体・メディア・金属・漆・染織）の中から、2つ以上の異なる研究領域のテーマを選択・設定します。	上記実技教員及び 教授 大井 健二 助教授 関村 誠 ◎助教授 加木屋健司	
	特別造形総合演習Ⅰ・Ⅱ この演習では、理論系教員と実技系教員が共同で研究指導にあたります。その指導方法は、学生の研究志向に応じて、作品の理論研究と創造的創作研究との二つの面の総合的指導を重視し、博士号申請に関わる論文と作品との審査に直結する演習とします。	理論系 創造とは何か、創造はいかにして可能か、これらについての思索を拓けるよう指導します。また、「歴史」や「現代」に迫り、「他者」を発見し「私」のあるような論文執筆の指導を行います。 古典美学から現代美学に至る思想の流れを踏まえて、現代における造形芸術の創造的創作に関わる理論の問題について、その「基礎論」を固めるべく指導します。 美術史（とりわけ現代美術）の言説に幅広く接することによって、各自が論文を書く際に、それぞれの問題関心を分析的に捉え、的確に表現できるようになることを目指します。	教授 大井 健二 助教授 関村 誠 ◎助教授 加木屋健司
		絵画領域 日本画研究 学生の研究志向に応じ、技法及び材料の理解と表現の分析、テーマの選定に関し指導します。	教授 倉島 重友 教授 西田 俊英
		油絵研究 学生の研究志向に応じ油絵の伝統技法、特にその根底にある写実の精神についての研究を踏まえ、指導します。	☆教授 三原 捷宏 教授 堀 研
		彫刻領域 彫刻研究 作品の創作、研究の過程で培った彫刻理論と美学及び芸術学・美術史における理論の両面を踏まえ、より深い彫刻芸術を探究します。	教授 綿引 道郎 教授 植草 正勝 教授 前川 義春
造形計画領域 デザイン研究 高度なデザイン分野における表現研究を深め、博士号申請に関わる、創造的創作研究と理論研究との二つの面から総合的指導を行います。		教授 大井 健次 教授 服部 等作 教授 中嶋 健明 教授 及川 久男 助教授 鰐澤 達夫	
工芸研究 実材系分野である工芸において各々の創作表現研究を探究するとともに、作品の理論研究も指導し、作品と理論の二つの面での総合的な指導を行います。		教授 若山 裕昭 教授 藤本 哲夫 教授 南 昌伸	

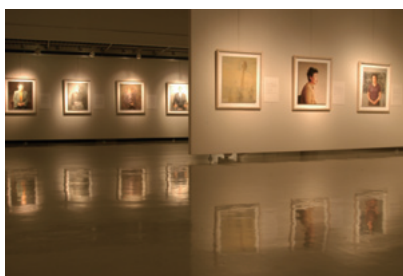
授業科目の概要および担当教員については、平成 18 年 4 月現在のものです。☆の教員は、平成 18 年度末で退任予定です。◎の教員は、平成 19 年度から着任予定です。

大学院生の研究活動紹介



日本画模写

博士前期課程・日本画研究（古典研究）では、日本画制作と古典作品の研究に取り組んでおり、本学芸術資料館収蔵作品をはじめ、高松塚古墳壁画、法隆寺金堂壁画等の模写を進めている。古典作品の模写は、日本画を学ぶ方法として永く行われており、優れた文化財の表現・技法・材料の研究は、日本画制作の糧となっている。写真は日本画博士前期課程において、本学芸術資料館所蔵の室町時代に描かれた「羅刹天像」の模写に取り組んでいる様子。現在、原寸写真から線描きや色彩の形を写し取り、原本を見ながら古色染めをした絵絹に彩色をすることで、より高度な模写を目指している。（関連専攻：絵画・総合造形芸術）



「光の肖像」展 - 被爆者たち、それを受け継ぐ者たちの眼差し -

会期：2006年7月31日 - 8月9日

会場：広島市立大学芸術資料館

直接の被爆の苦しみを受けた方のみならず、胎内被爆の方、被災後の放射能に汚染された方、そしてその血を受け継ぐ子孫の方々の「肖像」を描き残すことを通して絵画による被爆体験の継承を行うプロジェクト。油彩による表現には、その根本的な命題として「人間とは何か」という問いが内包されている。被爆者の肖像を描くことによって被爆体験の継承とともに「描く行為」の根源的な問いかけに自らをさらし黙考することに繋がった。（関連専攻：絵画・総合造形芸術）



江田ゆかり《軌道》

第2回出雲・玉造アートフェスティバル

会期：2006年4月1日 - 6月30日

会場：島根県松江市玉湯町玉造

広島市立大学を中心に、島根大学と国内外の作家11人によるアートフェスティバルを、島根県（玉造温泉街）において開催。十数件の旅館や神社、史跡公園などに、約30点の作品を設置し、照明デザイナーによるライトアップ等、時間で変化する会場構成も試みた。温泉の歴史は、『出雲国風土記』にその名があるほど古く、勾玉（まがたま）を作っていた場所としても知られる。その歴史ある場所内に在する魅力、土地と人、作品の新たな関係を見出すべく考察した。（関連専攻：彫刻・総合造形芸術）



土井満治《fortlaufend》（制作風景）

広島市立大学・ニュルンベルク美術大学 アートプロジェクト -KHORA 2-

期間：2006年8月2日 - 9月16日

会場：ニュルンベルク動物園、ニュルンベルク美術大学（ドイツ）

2005年に開催された「アートプロジェクト KHORA」のニュルンベルク編として開催。これまで芸術学部では、国際的な取り組みと、地域への取り組みを平行に行ってきたが、今回のプロジェクトではこれらの取り組みをプロジェクトベースで同期させる新しい試みである。一連の取り組みを通して、広島とニュルンベルク双方の地域文化に対する理解を深め、芸術の新たな可能性を模索すると同時に、国際的活動を行う若い芸術家の実践の育成の場を提供する。（関連専攻：彫刻・造形計画・総合造形芸術）



福永教《Schmetterling》

Art Crossing Hiroshima project 2005 Winter -ギフト・オブ・ヒロシマ-

会期：2005年12月13日 - 2006年1月29日

会場：ブラウンシュバイク美術大学（ドイツ）

「広島（ヒロシマ）からの贈物」をテーマに、ブラウンシュバイク市（ドイツ）においてレクチャー及び展覧会を開催した。広島からは15名の教員・学生らが参加し、海外でのプレゼンテーションを実施。このプロジェクトは、2001年に広島市内各所を会場に開催された「Art Crossing Hiroshima project 2001 Spring」の2005年度版でもある。（関連専攻：彫刻・造形計画・総合造形芸術）

芸術学部

Faculty of Art

F A C U L T Y
F A C U L T Y
C
A R T
F
A R T

芸術学部の構成

学科	専攻	募集定員			詳細
美術学科	日本画専攻	10人			P.15
	油絵専攻	20人			
	彫刻専攻	10人			
学科	募集定員		領域	分野	詳細
デザイン工芸学科	40人		現代表現領域	現代表現分野	P.16
			デザイン工芸領域	視覚造形分野	
				メディア造形分野	
				立体造形分野	
				金属造形分野	
				漆造形分野	
				染織造形分野	

教育方針

基礎美学を重視した実技主体の教育が芸術学部の特徴です。

芸術は、自由な精神を土台として、人間性を表現する人間そのものの行為です。

これまで、ともすれば直接経済活動とは結びつかない特殊な領域とされてきた芸術が、いま、現代社会において、科学技術、経済、政治などの社会活動全般にわたり感性と人間性を豊かにする社会的行為として、期待されるようになってきました。

芸術学部は、このような現代社会における芸術の役割を認識し、広範な活動領域で持続的な創作活動を行うことのできる人材を養成します。実技主体の学部として、基礎実技を重視した教育研究を行うとともに、学科や専攻にとらわれず、多様な表現技法を修得できるように、多角

的な学習を行います。また、国際的な視野の下に教育研究を推進するため、異文化理解などを重視した教育を行うとともに、国際関係論や情報処理など、3学部の連携による幅広い教養教育を基礎に美術教育を行います。

なお、1998（平成10年）4月に大学院博士前期課程（修士課程）を、2000年（平成12年）4月に同後期課程（博士課程）を開設しました。大学院では、より専門的な芸術家の育成を目指します。

古美術研究演習

3年次の後期に、油絵専攻ではイタリア、日本画専攻・彫刻専攻、ならびにデザイン工芸学科は京都・奈良への古美術研究旅行を行います。イタリアではフィレンツェ・ローマ・ミラノなどの美術館を訪れ、地域や時代によって異なる絵画技法や材料を考察し、ルネサンス期を中心に絵画のルーツを探ります。

取得可能な資格

- ・中学校・高等学校教諭一種免許状（美術）
- ・高等学校教諭一種免許状（工芸）
- ・博物館、美術館などの学芸員

開設専門基礎科目

1年次	2年次	3年次	4年次
美術解剖学	図法及び製図	美学	なし
デザイン概論	西洋美術史	日本美術史	
工芸概論	材料技法演習	東洋美術史	
油彩画材料論	総合演習 C	西洋美術史特論	
油絵入門	工芸制作	文化財学研究	
日本画入門	造形応用研究	彫刻論	
現代美術演習 I	工学概論		
	工芸材料概説		
	写真（映像）概論		
	現代美術論		
	版画制作演習		
	絵画論		
	デザインと文化		
	現代美術演習 II		

専門基礎科目名は、平成18年4月現在のものです。

美術学科

Fine Arts

確実な基礎技法の上に表現力が花開く。個性と技術が作家活動につながります。

教育研究内容

美術学科は純粋アートの制作を学ぶ学科です。ものの見方、形のとらえ方といった基礎力をしっかり磨き、そのうえで、日本画、油絵、彫刻の3つの専攻それぞれの技法を修得し、自分ならではの表現を追求していきます。1年次から各専攻ごとに実習に力を入れ、手の動きを積み重ねるなかから、確実な技法の修得をめざしていきますが、あわせて、専攻にとらわれず、さまざまな素材を使った表現の可能性も追求していきます。

開設専攻

専攻	専攻の内容	担当教員
日本画専攻	基本的実技を通して、日本画における材料の基礎的な理解及び個性的な造形感覚を進展させます。1～3年次で幅広く課題を経験するとともに、絹本を使用した制作、箔講義、裏うち講義や古典作品の模写を通してさまざまな技法も学ぶことにより、絵画表現に幅をもたせ、4年次の卒業制作に備えます。	教授 倉島 重友
		教授 西田 俊英
		助教授 藁谷 実
		助教授 北田 克己
		助教授 佐々木 正
油絵専攻	基本的指導方針として、写実ないし具象表現を根幹とした教育を行います。1～4年次を通じてデッサンの重視と古典の研究を中心課題とし、油絵制作の実技を通して本格的な油絵の専門技術を修得します。さらに、絵画表現領域を拡大するため、各種版画の技法研究も行います。	☆教授 三原 捷宏
		教授 堀 研
		教授 磯江 毅
		教授 友安 一成
		教授 吉井 章
		教授 大矢 英雄
		助教授 森永 昌司
彫刻専攻	4年間を通して、彫刻の基礎となる塑造を中心に制作を重ねます。人体をモデルとして、自然から彫刻芸術の基礎を学び、併せて東洋・西洋の古典を学習しながら、自らの創造基盤を作り上げます。1、2年次には、木・石・金属などの実材彫刻の基礎を学習し、3年次以降は、自由な制作活動の中から自己表現の方法を学びます。	教授 綿引 道郎
		教授 植草 正勝
		教授 前川 義春
		助教授 伊東 敏光
		☆助手 和田拓治郎

美術学科専門科目

	1年次	2年次	3年次	4年次
日本画専攻 専門科目	日本画実習Ⅰ	日本画実習Ⅱ	日本画実習Ⅲ	日本画実習Ⅳ
	デッサン実習Ⅰ	デッサン実習Ⅱ	古美術研究（演習）	絵画論演習
	構成実習Ⅰ（平面）	構成実習Ⅱ（平面）	材料論演習Ⅲ（金属材料）	特別演習（裏打技法）
	材料論演習Ⅰ・Ⅱ	彫刻	デッサン実習Ⅲ	卒業制作
			構成実習Ⅲ（平面） 学外演習	
油絵専攻 専門科目	油絵実習Ⅰ A・B	油絵実習Ⅱ A・B	油絵実習Ⅲ A・B	油絵実習Ⅳ A・B
	デッサン実習Ⅰ	デッサン実習Ⅱ	古美術研究（演習）	卒業制作 A・B
	構成実習Ⅰ（平面）	版画制作実習Ⅰ	デッサン実習Ⅲ	
	彫刻	学外演習	構成実習Ⅲ（平面）	
		構成実習Ⅱ（平面）	版画制作実習Ⅱ	
		油絵材料・技法演習（古典技法）		
彫刻専攻 専門科目	彫刻実習Ⅰ	彫刻実習Ⅱ	彫刻実習Ⅲ	彫刻実習Ⅳ
	構成実習Ⅰ（平面）	デッサン実習Ⅱ	古美術研究（演習）	卒業制作
	デッサン実習Ⅰ	実材制作実習Ⅰ	実材制作実習Ⅱ	
	実材制作基礎実習（工芸制作を含む）	構成実習Ⅱ（平面・立体）	彫刻論演習（古典研究を含む）	
			構成実習Ⅲ（立体）	
			デッサン実習Ⅲ	

担当教員および専門科目については、平成18年4月現在のものです。☆の教員は、平成18年度末で退任予定です。

デザイン工芸学科

Design and Industrial Arts

日常のなかにも、クリエイティビティを発揮できる場所がある。

教育研究内容

生活に関する造形芸術としてのデザイン及び工芸の総合的な教育研究を目的として、基礎的な表現力と技術を重視するとともに、既成の分野にとらわれず、多様な素材を体感し、広範な活動領域の中で十分に対応できる、創造性のある幅広い表現法の展開を可能とする教育を行います。1年次にデザイン・工芸の基礎実技教育を行い、幅広い表現方法を修得させ、2～4年次で各専門分野に分かれて、課題制作や卒業制作に備えます。

開設分野

	分野	分野の内容	担当教員
現代表現領域	現代表現分野	現代表現の演習と作品の言語構築。プレゼンテーション・キュレーションを含めたアーティスト、キュレーターの育成と、国内外での実践活動を目指します。	教授 大井 健次 教授 鰐澤 達夫 助教授 柳 幸典 ◎助教授 加治屋健司
デザイン工芸領域	視覚造形分野	ビジュアルコミュニケーションデザインの基本となる日本の墨や毛筆、西洋古典の模写を通じて技法と感性を知り、コンピュータを使ったCGやDTPへの展開等を修得。イラストレーションやグラフィックデザイン等多岐にわたるメディアへの応用に取り組みます。	教授 及川 久男 (兼任) 教授 大井 健次
	メディア造形分野	本学の高度に整備されたコンピュータ環境を生かし、多彩なメディアを用いて、五感全てに訴えかける芸術表現の可能性の探究を目的に、コンピュータグラフィックスやヴァーチャルリアリティーなどの映像表現を核に実習を行います。	教授 中嶋 健明 助教授 笠原 浩
	立体造形分野	生活空間における人—モノ—情報環境の関係を考察し、計画から実際の制作を通じて、機能や素材と構造の関係を学びます。制作にあたっては芸術資料館の収蔵資料で情報収集・活用・蓄積を行い、各専門工房（金属・木工・染織・塗装・CGラボ等）の有機的活用をはかります。	教授 服部 等作 助教授 吉田 幸弘
	金属造形分野	人類が金属素材と出会って以来、金属の可能性への探究は、弛みなく行われてきました。いまや、日常生活においても、大変身近となった金属素材は、多種多様です。彫金、銀金、鍍金といった、金属工芸の基本的な技法と素材について学び、各自の素材に対するアプローチを大切にしながら、金属造形の世界を開拓していきます。	教授 若山 裕昭 教授 南 昌伸 助教授 永見 文人
	漆造形分野	漆の造形には、木、金属、布等、様々な素材の認識と技術の習得が必要です。深く追求することで多様な知識と必然性を学び、自由な自己表現をめざします。	講師 大塚 智嗣
	染織造形分野	染織工芸は古来から生活用品としてそれぞれの時代の文化の証です。日本独自の多様な技法と感性の蓄積を今一度見つめ直し、現代社会における染・織・繊維造形のあり方を広い視点から捉え、手仕事による独自の作品に取り組みます。	教授 藤本 哲夫 助教授 倉内 啓

デザイン工芸学科専門科目

1年次	2年次	3年次	4年次
造形実習Ⅰ A・B	総合表現研究(演習)	テーマ研究(演習)	造形実習Ⅳ
描出実習Ⅰ	描出実習Ⅱ	古典研究(古美研旅行含む)	卒業制作
形体実習Ⅰ	造形実習Ⅱ A・B 形体実習Ⅱ	造形実習Ⅲ A・B	

担当教員および専門科目名については、原則として平成18年4月現在のものです。◎の教員は、平成19年度から着任予定です。

芸術学部・芸術学研究科の施設

芸術学部棟	日本画アトリエ	模写室
	油絵アトリエ	油絵フラスコ実験室
	彫刻アトリエ	造形計画アトリエ
	VRスタジオ	CGラボラトリー
第1工房棟	3D工房	版画工房
	染工房	メディア工房
	CATラボラトリー	漆工房
	織工房	
第2工房棟	木彫実習室	石彫実習室
	木工機械室	金属実習室
	金工機械室	
第3工房棟	プラスチック塗装実習室	彫金実習室
	鍛造実習室	鍛金実習室



新アクセス登場。広島市立大学がより近く、より充実したものに。

平成13年に「広島高速4号線」が開通。この開通で広島都心部から市立大学までが車を使えば最短13分に短縮。また、JR各駅からはバスが出ており、横川駅から広島市立大学まで約12分、JR新井口駅からは約24分で到着。さらに、広島都心部と「西風新都」間は、新交通システム「アストラムライン」で結ばれており、これら2つの公共交通機関を使うことで、広島市立大学へのアクセスがこれまで以上にぐんと便利になりました。



広島市立大学大学院

国際学研究科 情報科学研究科 芸術学研究科

入試に関するお問い合わせ先

広島市立大学事務局入試担当

Phone 082・830・1503

nyushi@office.hiroshima-cu.ac.jp

編集発行 広島市立大学広報委員会

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号

Phone 082・830・1500 (代) Fax. 082・830・1656

<http://www.hiroshima-cu.ac.jp/>

発行日 平成18年10月31日

デザイン 中村圭

印刷 株式会社中本本店

登録番号 広W0-2006-065

R100

古紙/ビオ配合率100%再生紙を使用しています